

体育嫌いを生起させる要因の研究

— 体育授業における教師行動について —

兵 頭 寛・河 野 昭

(保健体育研究室)

(平成3年10月11日受理)

研究目的

今日の学校体育は、生涯スポーツの基礎教育の立場を強調し、運動に対する愛好的態度の育成が強く意図されている。そのため、運動の楽しさを味わわせることを体育目標の一つにかかげ、運動する喜びや楽しさを体得した子どもの育成を最大の課題としている。

日常的スポーツ活動実施を規定する要因の中で、スポーツへの愛好的態度がスポーツ実施行動そのものと深くかかわっているという指摘を多くみることができる。^{26) 31) 34)} また、学校卒業後のスポーツ行動と在学中の学校体育との間にある程度の関連があるとされ、体育実技への愛好的態度が卒業後におけるスポーツの愛好的態度及びスポーツ実施行動と関連するとの指摘もある。^{22) 23)}

このようなことから、学校体育においてスポーツ実施行動そのものと深くかかわるとされるスポーツへの愛好的態度の形成が求められる中で、体育授業に対して、否定的な感情及び、嫌悪感を持つ子ども（以下「体育嫌い」と呼ぶ）が多少なりとも存在することは、ゆるがせにできないことである。

授業は、どの教科でも、その教科の持つ本質的な「楽しさ」「面白さ」を教える点に終極の目的がある。したがって、運動の持つ本当の面白さ、楽しさは教科指導でこそ意図的に計画的に指導されなければならない。専門教師によって体育が教科として教授されるのは、わが国の持つ学校体育の秀でた特色である。²⁰⁾ 教科体育を通して運動やスポーツの楽しさやスポーツにおける人間関係の楽しさを正しく教えるべき体育授業の場で「運動嫌い」「体育嫌い」の子どもが育成されたとしたら、ゆゆしき問題である。

運動嫌いの特徴、要因及び解消策に関する研究としては、浅田¹⁾、安田³⁵⁾、宇土⁴⁾、池田²⁾、岡田⁵⁾、加賀⁷⁾、小林⁸⁾、佐久本^{10) 11) 12)}、坂田¹³⁾、近藤⁹⁾、高田^{19) 20)}、末利¹⁷⁾、丹羽^{24) 25)}、長谷川²⁷⁾、藤巻^{29) 30)}らの報告がある。これらの研究は、いずれも体育嫌いの要因の一つに教師要因をあげている。また、杉原¹⁷⁾、松井³³⁾は、子どもから好かれる教師の資質など理想的な体育教師像について研究し、体育好きにさせる教師の資質を追及している。

伊藤・波田野は³⁾ これまでの運動嫌いに関する研究によって明らかにされた「体育嫌い」の生起にかかわるものとして示唆された要因を大きく3要因に分類している。それによると、①体育授業の中で、自分の持っている能力に対して強い劣等感を感じていること、②体育授業の中で、運動する楽しさや技術向上の喜びを経験していないこと、③体育教師の性格、指導理念、

指導法，などについて否定的な感情を持つこと，をあげている。

佐久本¹¹⁾は，運動嫌いに関する教師の因子として，指導態度，激励，指導力，指導上の言動，指導法の因子を抽出している。一方，和田³⁶⁾は，運動嫌いを規定している教授行動として，教師の信頼性，情熱，熱意，工夫，運動への参加，授業の管理などの因子をあげている。

これらの研究は，いずれも運動一般に対する好き嫌いの態度研究の中での教師要因に関するものであり，体育授業における教師行動を直接研究対象にしたものではない。授業の最大の変数は教師であるにもかかわらず，教師行動そのものを体育嫌いの生起要因として研究したものは少ない。

教育は，いかなる場合においても教師の媒介においてなされるものであることから，運動に対する子どもの態度形成に教師が重大な影響力を持つことは容易に考えられる。したがって，体育の授業に対する愛好的態度形成を阻害する要因を明らかにするためには，教師の行動を研究することはそれなりの意味があると思われる。

そこで，本研究は，運動嫌いの生起にかかわる重要な要因の一つとされる教師に視点を当て，体育授業という場に限定して教師をその行動レベルにおいて研究対象とし，体育嫌いの生起との関わりを明らかにすることを目的とした。

なお，「運動嫌い」の概念規定は難しく，過去の研究報告においても「運動嫌い」「体育嫌い」などの用語の使用は一様でない。¹¹⁾しかし，「運動好きの体育嫌い」の存在も指摘されていることから，本研究では，「運動嫌い」とは，スポーツや身体活動一般に対して非好意的あるいは消極的態度を示す個人の総称とした。一方，「体育嫌い」は，スポーツや身体的活動を素材として計画的・組織的に行う体育の授業に対して非好意的あるいは消極的態度を示す個人の総称とし，両者を区別して使用することとした。

方 法

- (1) 調査対象 M市内5校の小学校6年生249名，その内訳は，男子173名，女子176名である。
- (2) 実施方法 平成元年10月から12月にかけて質問紙調査を集団実施した。
- (3) 調査内容 体育嫌いを生起させる教師行動に関する質問紙の内容は体育嫌い，運動嫌いに関するこれまでの多くの研究法を参考にし，子どもに「どのような時に体育が嫌いになるか」，自由記述させた予備調査をもとに，①性格・行動傾向，②指導理念，③指導方法，④指導態度，⑤授業の雰囲気などについて，それぞれ5～9項目，合計40項目の教師行動を作成した。

調査に当たっては，担任の先生の体育授業について評価するのではないことを強調した上で，「あなたは，これまで体育の授業で，先生にいろいろ指導された時，体育が好きになったり嫌いになったりしたことがあると思いますが，どんな時に体育は嫌いだという気持ちになりましたか」という質問に，これまでの体育授業を振り返りながら，思い当たることを正直に答えるよう指示し，用意した40項目の質問について，「大変あてはまる（5点）から，全くあてはまらない（1点）の5段階で評定させた。

結果と考察

1. 運動と体育に対する態度

運動に対する態度を表1に体育に対する態度を表2に示した。

運動に対する好き嫌いは、対象者349名中、大好き118名、好き123名を合わせると241名になり、69%の子どもが運動に愛好的態度を示した。一方、運動が嫌い、大嫌いと答えた者は12名で、運動嫌いの子どもは全体の3.5%にのぼった。また、運動の好き嫌いに対する態度の性差はみられなかった。

体育に対する好き嫌いは、大好き117名、好き125名を合わせると242名で全体の69.3%にのぼり、運動に対する好き嫌いと同様な傾向を示した。一方、体育が嫌い、大嫌いとした子どもは15名で、運動嫌いに比べて2名の増加がみられ、全体の4.3%を占めた。性差についてみると、1%レベルで有意差が認められ、男子の方が女子より体育に好意的態度を示す傾向がみられた。

運動の好き嫌いとは体育の好き嫌いをクロス集計して表3に示した。

運動の好き嫌いとは体育の好き嫌いについて相関係数を求

表1 運動の好き嫌い

	男 n	子 %	女 n	子 %	全 n	体 %
大 好 喜	69	39.9	49	27.8	118	33.8
好 好 喜	55	31.8	68	38.6	123	35.2
ふ つ う	45	26.0	51	29.0	96	27.5
嫌 い	3	1.7	7	4.0	10	2.9
大 嫌 い	1	0.6	1	0.6	2	0.6
N	173	100.0	176	100.0	349	100.0

表2 体育の好き嫌い

	男 n	子 %	女 n	子 %	全 n	体 %
大 好 喜	77	44.5	40	22.7	117	33.5
好 好 喜	55	31.8	70	39.8	125	35.8
ふ つ う	37	21.4	55	31.3	92	26.4
嫌 い	3	1.7	8	4.5	11	3.2
大 嫌 い	1	0.6	3	1.7	4	1.1
N	173	100.0	176	100.0	349	100.0

χ^2 検定 P<0.01

表3 運動の好き嫌いとは体育授業の好き嫌いのクロス集計

		運 動 の 好 き 嫌 い					全 体
		大 好 喜	好 喜	普 通	嫌 い	大 嫌 い	
体 育 授 業 の 好 き 嫌 い	大 好 喜	n	85	21	11		117
		%	72.6	17.9	9.4		100.0
	好 喜	n	26	67	31		125
		%	20.8	53.6	24.8		100.0
	ふ つ う	n	7	34	47	4	92
	%	7.6	37.0	51.1	4.3	100.0	
嫌 い	n		1	5	5	11	
	%		9.1	45.5	45.5	100.0	
大 嫌 い	n			2	1	4	
	%			50.0	25.5	25.5	100.0
N		118	123	96	10	2	349
%		33.8	35.2	27.5	2.9	0.6	100.0

χ^2 検定 P<0.01

めた結果 $r = 0.70$ ($P < 0.01$) とかなり高い相関が認められた。両者の関係を詳しく検討すると、運動が大好き、好きと答えた241名のうち、体育が大好き、好きと答えたのは、199名(82.6%)であった。残り42名は、普通41名(17.0%)、嫌い1名(0.4%)に移動しており、運動に対する愛好的態度に比べて、体育に対する愛好的態度はやや低下の傾向がみられた。

運動の好きな程度が、普通とした96名の体育の好き嫌いについてみると、大好き11名(11.5%)、好き31名(32.3%)、普通47名(49%)、嫌い5名(5.2%)、大嫌い2名(2.1%)であった。普通から好きな方への移動は43.8%、普通から嫌いな方への移動は7.3%と、体育に愛好的態度を示す子どもが多かったが、わずかではあるが、体育に非愛好的態度を示す子どもの増加がみられた。

運動が嫌いだと答えた10名の体育に対する態度は、授業が大好き、好きと答えた者はなく、普通4名(40%)、嫌い5名(50%)、大嫌い1名(10%)であった。また、運動が大嫌いだと答えた2名の内わけは、体育が好き1名(50%)、大嫌い1名(50%)であった。

全体的な傾向をみると、運動に対する好き嫌いの態度と体育に対する好き嫌いの程度が同じであった子どもは58.7%、運動の方が体育より好きとした子どもは21.8%、逆に体育の方が運動より好きとした子どもは19.5%であった。これらのことから、体育が運動への愛好的態度を増幅する場合と、逆に、体育が運動への態度を非愛好的にする場合との二つの要因になっていることが示唆された。すなわち、体育は子どもを運動好きにする方向と運動嫌いにする方向との双方向に機能している。

本来、子どもは運動することを望んでいるという認識である。子どもは何かを学び、何かを知ろうとする知的好奇心が旺盛である。運動したいはずの子どもにつまらない授業をするから、体育嫌いになるのではなかろうか。³³⁾ 子どもの必要や願望を妨げている授業の中にある障害を除去し改善してやれば、運動をする子、体育が好きな子の育成は可能である。そのためには、体育に非愛好的な感情を生起させるような教師行動を究明しなければならない。

2. 体育で子どもが嫌う教師行動

体育で子どもが嫌う教師行動40項目について評定の平均値を求め、表4に示した。

体育で子どもが最も嫌う教師行動の上位5項目をみると、男子は「できる人とできない人を比べる授業」「実力差がはっきり分かる授業」「いわれた通りに動くだけの授業」「基礎練習ばかりでゲームをなかなかさせてくれない授業」「上手な人ばかり楽しんで下手な人は楽しめない授業」という項目であった。一方、女子は「上手な人だけ楽しんで下手な人は楽しめない授業」「いわれた通りに動くだけの授業」「できる人とできない人を比べる授業」「実力差がはっきりわかる授業」「自分の能力以上のことをやらされる授業」という項目であった。

男女とも5項目中4項目は共通しており、できる人とできない人を比べたり、能力差が目立ち、上手な人だけしか楽しめないような授業、いわれた通りにするだけで創造活動のない授業、などを体育嫌いにさせる要因としてあげている。

男女差をみると、全体的には男子は40項目中29項目に女子より高い評定平均値を示したが、男女の間に有意差が認められたのは、「面白くない授業」「運動ができるまで残される授業」「思い切り運動させてくれない授業」「基礎練習ばかりでなかなかゲームをさせてくれない授業」の4項目だけであった。これら4項目はいずれも男子の方が高い評定平均値を示した。

体育の好きな群と嫌いな群、運動の得意な群と不得意な群に分けて比較した結果を表5に示

表4 体育を嫌いにさせる教師要因 (平均値・標準偏差)

項 目	男 子 (n=173)		女 子 (n=176)		全 体 (N=349)	
	M	SD	M	SD	M	SD
1. できる人ばかりひいきする	2.30	1.27	2.33	1.15	2.32	1.21
2. できる人とできない人を比べる	2.30	1.23	2.51	1.13	2.40	1.18
3. 気にしていることをいう	2.15	1.26	2.21	1.21	2.18	1.23
4. 頑張ってもほめてくれない	2.32	1.19	2.15	1.10	2.24	1.15
5. 努力しているのに認めてくれない	2.09	1.12	2.33	1.16	2.21	1.14
6. はげましの声を掛けてくれない	2.17	1.17	2.07	1.00	2.09	1.09
7. 困っていても助けてくれない	2.10	1.09	2.06	1.07	2.08	1.08
8. 良いところをはめないで欠点ばかり取り上げる	2.11	1.15	1.94	1.08	2.03	1.12
9. 無視されたり冷たい扱いをされる	1.98	1.24	1.75	1.04	1.86	1.15
10. わかりやすく教えてくれない	1.98	1.17	2.01	1.15	2.00	1.16
11. わかるまで教えてくれない	2.14	1.22	2.04	1.13	2.09	1.17
12. 一緒に運動してくれない	2.01	1.20	2.07	1.16	2.04	1.18
13. 親しみにくい	2.08	1.25	2.08	1.12	2.08	1.19
14. きびしい	2.35	1.28	2.17	1.10	2.26	1.20
15. 面白さが無い	2.20*	1.36	1.92	1.08	2.06	1.23
16. 細かいことまで口うるさい	2.32	1.32	2.13	1.10	2.22	1.22
17. 人の気持ちを考えずにしかる	2.46	1.42	2.27	1.15	2.36	1.30
18. その時の気げんによってしかる	2.49	1.44	2.29	1.25	2.39	1.35
19. 理由を聞かずにしかる	2.08	1.31	1.97	1.07	2.02	1.19
20. 運動の仕方を教えるだけで理由を教えてくれない	2.27	1.22	2.15	1.10	2.21	1.16
21. なぜうまくできないのかその理由を教えてくれない	2.05	1.10	1.96	1.02	2.00	1.06
22. 運動ができるまで残される	1.97*	1.30	1.71	0.97	1.82	1.15
23. 思い切り運動させてくれない	2.40**	1.35	2.05	1.13	2.22	1.26
24. できなくてもどんどん授業を進める	2.45	1.34	2.32	1.22	2.38	1.28
25. 暗い雰囲気ですすめる	1.85	1.19	1.71	0.95	1.78	1.08
26. 人前で運動させ試される	2.51	1.33	2.34	1.26	2.42	1.30
27. 上手な人だけ楽しんで下手な人は楽しめない	2.55	1.37	2.67	1.25	2.61	1.31
28. できる人にもできない人にも同じことしか教えない	2.58	1.36	2.32	1.26	2.45	1.32
29. 自分の能力以上のことをやらされる	2.37	1.28	2.39	1.21	2.38	1.25
30. 実力差がはっきりわかる授業が多い	2.71	1.38	2.51	1.28	2.61	1.33
31. 嫌いな運動ばかりさせて好きな運動をさせてくれない	2.39	1.37	2.29	1.23	2.34	1.30
32. 言われた通りに動くだけ	2.61	1.30	2.52	1.25	2.57	1.27
33. 自分たちで考えて運動することがない	2.32	1.26	2.34	1.07	2.33	1.17
34. 意見を取り上げてくれない	2.15	1.26	2.21	1.15	2.18	1.20
35. 練習の仕方を工夫させてくれない	2.39	1.29	2.25	1.14	2.32	1.22
36. 自由に練習させてくれない	2.34	1.22	2.13	1.21	2.23	1.22
37. みんなと仲よく練習させてくれない	1.90	1.16	1.94	1.09	1.92	1.12
38. おたがいで教えたり教えられたりすることがない	2.12	1.20	1.98	1.05	2.05	1.13
39. 競争ばかりさせられる	2.16	1.13	2.06	1.12	2.11	1.13
40. 基礎練習ばかりでなかなかゲームをさせてくれない	2.60*	1.38	2.31	1.23	2.45	1.32

N=349 (男子173, 女子176) 平均得点の男女差 * : P<.05, ** : P<.01

した。

体育の好き嫌いの属性による比較では、全項目にわたって体育の嫌いな群は体育の好きな群より高い評定平均値を示した。体育が好きな群の上位5項目とその平均値は、「できなくともどんどん授業をすすめる」(2.36点), 「人前で運動させ試される」(2.42点), 「全員に同じことしか教えない」(2.36点), 「力の差が目立つ授業をする」(2.50点), 「いわれた通りに運動するだけ」(2.44点)であった。

一方、体育が嫌いな群の上位5項目は、「できる人とできない人を比べる」(3.33点), 「親しみにくい」(3.33点), 「できる人ばかりひいきする」(3.20点), 「上手な人だけが楽しんで下手な人は楽しめない」(3.06点), 「嫌いな運動ばかりさせて好きな運動をさせてくれない」(3.06点), 「いわれたとおりに動くだけ」(3.06点)の5項目であった。

表5 体育を嫌いにさせる要因の属性比較

項 目	体育の好き嫌い		運動の得意不得意	
	好き (N=242)	嫌い (N=15)	得意 (N=75)	不得意 (N=125)
1. できる人ばかりひいきする		**		
2. できる人とできない人を比べる		**		*
3. 気にしていることを言う		*		
5. 努力しているのに認めてくれない		**		*
7. 困っていても助けてくれない		*		*
9. 無視されたり冷たい扱いをされる		**		
10. わかりやすく教えてくれない				*
13. 親しみにくい		**		
19. 理由を聞かずにしかる		*		
27. 上手な人だけ楽しんで下手な人は楽しめない				*
29. 自分の能力以上のことをやらされる				**
31. 嫌いな運動ばかりさせて好きな運動をさせてくれない		*		*
32. いわれた通りに動くだけ				**
39. 競争ばかりさせられる				*
40. 基礎練習ばかりでなかなかゲームをさせてくれない				

* : $P < .05$ ** : $P < .01$

体育の好きな群と嫌いな群について、平均値の差の検定を行った結果、1%～5%レベルで有意差(* : $P < 0.05$, ** : $P < 0.01$)が認められたのは、40項目中9項目であった。これら9項目から、体育嫌いの子どもが嫌う教師行動を要約すると、暖かさ・やさしさがなく、人と比べたりひいきする、楽しく運動させてくれない、親しみにくい、などである。

運動の得意群と不得意群についてみると、得意群が不得意群より評定平均値が高い値を示したのは40項目中、「思い切り運動させてくれない」「人前で運動させ試される」「練習を工夫させてくれない」の3項目だけであり、残り37項目はいずれも不得意群が高い評定平均値を示した。

運動の得意群が嫌う教師行動の上位5項目と平均値は「その時の気げんによってしかる」(2.41点)、「人前で運動させ試される」(2.40点)、「上手な人だけが楽しんで下手な人は楽しめない」(2.41点)、「力の差がはっきりわかる授業が多い」(2.42点)、「基礎練習ばかりでなかなかゲームをさせてくれない」(2.42点)であった。一方、運動不得意群が嫌う教師行動の上位5項目は、「上手な人だけが楽しんで下手な人は楽しめない」(2.80点)、「できる人にもできない人にも同じことしか教えない」(2.61点)、「自分の能力以上のことをやらされる」(2.64点)、「力の差がはっきりわかる授業が多い」(2.78点)、「いわれた通りに動くだけ」(2.81点)であった。また、両群間の差の検定を行った結果、有意差が認められたのは9項目であった。これら9項目から、運動の不得意な子どもが嫌う教師行動を要約すると、暖かさ・やさしさがなく、技能を人と比べる、下手な人は楽しめない、などである。

これらの属性比較から、体育や運動に非愛好的な態度を示す子どもは、体育や運動に愛好的態度を示す子どもと比べて教師行動に不満が多いこと、共通して嫌う教師行動は、暖かさ・やさしさがなく、技能を比べ、楽しさや親しみのない指導があげられる。

3. 体育嫌いを生起させる教師要因の因子分析

体育で子どもが嫌う教師行動40項目について因子分析を行い、抽出された因子負荷量表を表6、表7に示した。因子負荷量表には、0.40以上の負荷量を持つ項目だけを示してある。

因子分析の結果、男女とも固有値1以上で6因子を抽出した。抽出された6因子の寄与率は、男子62.6%、女子61.0%であった。因子別の寄与率では、男子は42.5%、6.6%、4.4%、3.3%、3.0%、2.8%となり第1因子に寄与率が集中した。女子は、40.2%、5.4%、4.6%、4.1%、3.5%、3.2%で、男子と同様、第1因子に寄与率が集中した。因子負荷量の絶対値が0.40以上の項目についてみると、男子の第1因子は7項目、第2因子は9項目、第3因子は5項目、第4因子は6項目、第5因子・第6因子は2項目である。一方、女子の第1因子は11項目、第2因子7項目、第3因子は2項目、第4因子は9項目、第5因子は2項目、第6因子は5項目である。女子は男子に比べて、第1因子、第4因子、第6因子を構成する項目数が多かった。

(1)男子の因子構造

男子の第1因子は、努力しているのに認めてくれない、励ましの声をかけてくれない、などの項目が示すように、教師の暖かい援助や励ましが無いことに対する子どもの嫌悪感を現しており、「援助・承認の因子」と命名した。なおこの因子は、寄与率が42.5%と抽出された6因

表6 主成分分析(回転後の因子負荷量表) 男子

項目内容 \ 因子負荷量	F 1	F 2	F 3	F 4	F 5	F 6
5. 努力しているのに認めてくれない	.741					
6. はげましの声をかけてくれない	.661					
7. 困っていても助けてくれない	.599					
4. 頑張ってもほめてくれない	.517					
8. 良いところをほめないで欠点ばかり取りあげる	.470					
10. わかりやすく教えてくれない	.458					
14. きびしい	.412					
36. 自由に練習させてくれない		-.789				
38. おたがいに教えたり教えられたりすることがない		-.713				
37. みんなと仲よく練習させてくれない		-.636				
35. 練習の仕方を工夫させてくれない		-.594				
33. 自分たちで考えて運動することがない		-.554				
34. 意見を取り上げてくれない		-.546				
32. いわれた通りに動くだけ		-.538				
40. 基礎練習ばかりでなかなかゲームをさせてくれない		-.457	-.455			
31. 嫌いな運動ばかりさせて好きな運動をさせてくれない		-.444				
11. わかるまで教えてくれない			-.700			
21. なぜうまくできないのかその理由を教えてくれない			-.617			
20. 運動の仕方を教えるだけで理由を教えてくれない			-.581			
12. 一緒に運動してくれない			-.533			
9. 無視されたり冷たい扱いをされる			-.470			
30. 実力差がはっきりわかる授業が多い				.771		
29. 自分の能力以上のことをやらされる				.745		
26. 人前で運動させ試される				.668		
27. 上手な人だけ楽しんで下手な人は楽しめない				.620		
24. できなくてもどンドン授業をすすめる				.566		.491
28. できる人にもできない人にも同じことしか教えない				.471		
22. 運動ができるまで残される					-.794	
23. 思い切り運動させてくれない					-.503	
25. 暗い雰囲気や授業をすすめる						.676
13. 親しみにくい						.577
寄与率	42.5	6.6	4.4	3.3	3.0	2.8
累積%		49.1	53.5	56.8	59.8	62.6

因子負荷量0.4以上を記載してある。F 6までに含まれなかった項目の記載は省略

表7 主成分分析(回転後の因子負荷量表) 女子

項目内容 \ 因子負荷量	F 1	F 2	F 3	F 4	F 5	F 6
4. 頑張ってもほめてくれない	.769					
7. 困っていても助けてくれない	.753					
5. 努力しているのに認めてくれない	.746					
11. わかるまで教えてくれない	.694					
6. はげましの声をかけてくれない	.688					
10. わかりやすく教えてくれない	.641					
8. 良いところをほめないで欠点ばかり取りあげる	.493					
9. 無視されたり冷たい扱いをされる	.480					
3. 気にしていることを言う	.473					
24. できなくてもどンドン授業をすすめる	.464					
21. なぜうまくできないのかその理由を教えてくれない	.409					
34. 意見を取り上げてくれない		-.704				
33. 自分たちで考えて運動することがない		-.697				
35. 練習の仕方を工夫させてくれない		-.676				
36. 自由に練習させてくれない		-.694				
37. みんなと仲よく練習させてくれない		-.647				
38. おたがいに教えたり教えられたりすることがない		-.522				
13. 親しみにくい		-.465			.423	
39. 競争ばかりさせられる			-.652			
26. 人前で運動させ試される			-.452			
29. 自分の能力以上のことをやらされる				.725		
18. その時の気げんによってしかる				.667		
28. できる人にもできない人にも同じときか教えない				.639		
30. 実力差がはっきりわかる授業が多い				.607		
19. 理由を聞かずにしかる				.456		
20. 運動の仕方を教えるだけで理由を教えてくれない				.454		
27. 上手な人だけ楽しんで下手な人は楽しめない				.442		
22. 運動ができるまで残される				.414		
17. 人の気持ちを考えずにしかる				.416		
2. できる人とできない人を比べる					.753	
1. できる人ばかりひいきする					.635	
12. 一緒に運動してくれない						.726
25. 暗い雰囲気ですすめる						.646
15. 面白くない	.402					.531
14. きびしい						.461
16. 細かいことまで口うるさい					.437	.447
寄与率 累積%	40.2	5.4 45.6	4.6 50.2	4.1 54.3	3.5 57.8	3.2 61.0

因子負荷量0.4以上を記載してある。F 6 までに含まれなかった項目の記載は省略

子のうち最も高く、重要な因子であることが理解できる。

この因子は、教師の暖かい援助行動の対極にあり、教師に対する子どもの依存性の高さが現れている。また、子どもが教師に期待する暖かい援助行動に反するため、教師がこのような行動をとれば、嫌悪感を醸成し、体育嫌いを生起させる原因となることが考えられる。しかも因子を構成する項目が多いのは、教師に対する子どもの依存性が高いことの現れである。この因子はどちらかといえば、教師としての本業を意味する項目から成り立っており、子どもはこれら項目の対局に教師の暖かい援助行動を望んでいるのである。

第2因子は、自由に練習させてくれない、おたがいに教えたり教えられたりすることがない、意見を取り上げてくれないなどの項目が示すように、指導法に対する不満を現しているので、

「指導法の因子」とした。この因子は、子どもの立場に立った指導ではなく、教師中心の指導法や授業の進め方に対する不満の表出といえるものである。人間が人間らしく活動できるのは、「自分自身で発想し、自分で計画や見通しを立て、自分の力で試し、その結果をみとどける」ことができる時であろう。岡田は、⁵⁾ 自分で工夫してみる、創造していくという活動はより人間的であり、子どもたちの体育活動の中にできるだけ豊富に取り入れていくことが、体育嫌いにさせない大きな要因となるとして、授業改善の必要性を強調している。

第3因子は、わかるまで教えてくれない、運動の仕方を教えるだけで理由を教えてくれない、などの項目にみられるように、教師の指導態度に対する不満を現しているので「指導態度の因子」とした。

この因子は、子どもの気持ちや考えを理解しようとしないう教師の無責任な態度に対する嫌悪感を現しており、このような指導態度が、運動は好きだが、体育はそれ程でもないという、いわゆる体育嫌いを生起させる要因になっていることは、すでに多くの研究で明らかにされている。

第4因子は、自分の能力以上のことをやらされる、できてもできなくてもどんどん授業をすすめる、その時の気げんによって叱るなど、教師の一方的な指導態度に対する嫌悪感を現しているので「独善的支配の因子」とした。体育指導の場では、教師が指示した内容が指示した方法で当然のよう行われている。このような教師の一方的指導が体育嫌いの要因になっている場合が多い。一方的にやらされるだけの授業は、苦痛が伴うことが多い。能力以上の高い目標であれば、喜びを味わうことはない。

第5因子は、運動ができるまで残される、の項目が示すように教師の厳しい行動に対する嫌悪感を現しているので「厳しさの因子」とした。過保護であるといわれる最近の子どもについて考える時、厳しい指導を嫌うのは当然の結果であると思われる。

第6因子は、暗い雰囲気や授業をすすめる、親しみにくいなどの項目が示すように教師の性格そのものに関わっているので「性格の因子」と命名した。暗い雰囲気や授業をすすめる、親しみにくい、面白さがないの各項目は、ズバリ教師の性格を指摘している。親しみやすいというのは、教師の条件の第一に上げられる資質である。体育の好き嫌いに関しては、教師の影響は見逃すことができない。子どもが体育が好きという場合、教師の好き嫌いをいっている場合が多い。子どもの多くは、教師が教えようとする内容ではなく、教えている先生その人に影響され、体育が好きになったり嫌いになったりする例は以外に多い。¹⁹⁾ したがって教師の性格が子どもに好かれるかどうかは、体育の好き嫌いの要因に十分なり得ることである。この因子は、指導理念や指導法という教師が用いる方法ではなく、教師そのものが、体育の好き嫌いを規定する要因の一つになっていることを現している。

(2) 女子の因子構造

女子の第1因子は、男子と共通する項目を多く含んでいたのが「援助・承認の因子」とした。第2因子も男子と共通項目を含んでいたのが「指導法の因子」とした。

第3因子は、競争ばかりさせられる、人前で運動し試されるなど、運動の技能や勝敗にこだわる教師の指導理念に対する嫌悪感を現していると考えられることから「能力主義の因子」とした。

競争ばかりさせられる、人前で運動させ試される、などの項目にみられるように運動のできばえや競争によって人を評価するような教師の指導に対する嫌悪感である。体育の内容である

スポーツは、技術性を持った活動であり、多くの場合競争関係の中で行われる活動であり、能力のすぐれた者が活動の中心に位置し、能力の劣る者は周辺に追いやられるのは必然的なことである。⁸⁾

体育指導の場合、まずもって警戒すべきは、教師の指導における能力主義である。体育やスポーツの場では、実技に秀でたものが花形となる。反対に技術の拙いものは、それと比較され嘲笑されることになりやすい。まわりにその意識がなくても本人は辛い。そのような思いをして体育が好きになるはずがない。¹⁶⁾

第4因子は、男子と共通項目を含んでいたので「独善的支配の因子」とした。第5因子は、できる人とできない人を比べる、できる人ばかりひいきするなど、不公平を嫌う項目から成り立っているので「公正・公平の因子」と命名した。

できる人ばかりひいきするという項目に代表されるように、子どもを差別せず、公正に扱うことは、指導を受ける子どもの側からいえば、教師に真っ先に望みたい事柄である。ところが、体育の授業では運動の上手下手がはっきり表われるため、教師自身は必ずしもそのつもりでなくとも、教師の目が上手な方に向きがちで、下手な子どもからみれば、差別感を意識することになり、体育嫌いの感情と結びつく要因となる。¹⁵⁾

第6因子は、男子と共通の項目を含んでいたので「性格の因子」とした。

(3) 因子構造の男女比較

因子構造の男女比較を表8に示した。

表8 因子構造の男女比較

因子	男子	女子
F 1	援助・承認の因子	援助・承認の因子
F 2	指導法の因子	指導法の因子
F 3	指導態度の因子	能力主義の因子
F 4	独善的支配の因子	独善的支配の因子
F 5	厳しさの因子	公正・公平の因子
F 6	性格の因子	性格の因子

男女の因子構造の違いをみると、第1因子「援助・承認の因子」、第2因子「指導法の因子」、第4因子「独善的支配行動の因子」、第6因子「性格の因子」は、抽出された因子の順序が全く同じであった。

一方、男子の第3因子「指導態度の因子」と女子の第3因子「能力主義の因子」との間に違いがみられた。男子は、わかるまで教えてくれない、なぜうまくできないのがその理由を教えてくれない、など、教師の無責任な指導態度に対して嫌悪感を示し、女子は、競争ばかりさせられるに代表されるように、スポーツの持つ技能主義が前面にでてくるような指導に対して嫌悪感を持っている。⁸⁾ 体力差が目立ち、自我意識や他人への関心が生まれる時期に個人差が友だちの前で明らかになるような体育をすると、うまくできない人の中には、劣等感を持つ人もでてきて体育嫌いになっていくものと思われる。女子は、運動技能の差が目立つ体育を極端に嫌う傾向がみられる。

また、男子の第5因子「きびしさの因子」と女子の第5因子「公正・公平の因子」との間に因子構造の違いがみられた。男子は、運動ができるまで残される、思いきり運動をさせてくれないの項目にみられるように、厳しさと自由の拘束を嫌う傾向が見られる。体育の中で教師は子どもの気持ちにかまわず、一方的に指導することがある。子どもを教師の考えている枠にはめこみ、縛ろうとする教師行動を嫌っているのである。一方、女子の「公正・公平の因子」は、ただでさえ、技能の優劣が目立つ体育の授業の中で、上手な人と比べられたり、教師の指導の

目が上手な人の方にばかり向けられて差別感を意識させられることは、最も避けたい事柄であろう。このような指導では、体育が好きになりようがない。

以上、体育嫌いを生起させる教師行動の各因子は、大きく分けて教師の人間性や性格など教師その人に関わる要因と、指導方針や指導技術など教師の指導方法に関わる要因の二つの柱から構成されていることが明らかになった。なお、抽出された因子には、佐久本¹⁰⁾が因子分析により教師の要因として解析した指導体制、指導力、指導法の各因子を含んでおり、ほぼ類似する結果が得られた。体育嫌いをなくするためには、解析されたこれら教師要因に目を向け、授業を工夫・改善していく努力が必要であろう。

要 約

本研究は、体育嫌いを生起させる教師の要因を明らかにするため、M市の小学校6年生349名を対象に質問紙法による調査を行い要因を分析した。その結果を以下の通り要約する。

- (1) 調査対象となった子どもの70%が運動や体育に愛好的態度を示した。運動嫌いは3.5%、体育嫌いは4.3%で、やや体育嫌いが多くみられた。また、運動に比べて体育に対する愛好的態度の低下は男子よりも女子に顕著であった。
- (2) 運動と体育の好き嫌いの程度が、ほぼ同じとした者58.7%、運動の方が好きとした者21.8%、体育の方が好きとした者19.5%であった。このことから、体育や運動の好き嫌いに教師が関わっていることが推察できる。
- (3) 体育で男女に共通して嫌われた教師行動は、できる人とできない人を比べたり、技能の差が目立ち、上手な人だけしか楽しめない、いわれた通りにするだけ、などの項目であり、技能中心で教師中心の授業であった。
- (4) 因子分析により、運動嫌いを生起させる教師要因を分析した結果、それぞれ6因子が抽出された。男子の因子は、第1因子から「援助・承認」「指導法」「指導態度」「独善の支配」「厳しさ」「性格」の因子であった。女子は「援助・承認」「指導法」「能力主義」「独善の支配」「公正・公平」「性格」の因子であった。これらの因子は、教師その人に関わる人間的要因と、教師が所有する指導法の要因に大別された。
- (5) 第3因子の男子「指導態度」と女子の「能力主義」、第5因子の男子「厳しさ」と女子「公正・公平」に因子構造の違いがみられ、運動嫌いを生起させる教師要因に性差がみられた。
- (6) これら教師要因の分析から、運動嫌いを生起させないため、授業態度や指導法など教師行動の具体的な改善の方向が示唆された。

引用・参考文献

- 1) 浅田隆夫「運動嫌いを形成するもの—学習のつまずきとの関連で—」体育科教育, 28-10:12-15, 1980.
- 2) 池田猪佐美「体育嫌いを直すための10章」体育科教育, 22-4:15-17, 1974.
- 3) 伊藤精男・波多野義郎「体育嫌いの生起に関する因果推論の試み」体育学研究, 27-3:239-246, 1982.
- 4) 宇土正彦「国民スポーツ普及・振興と学校体育の役割」体育科教育, 24-13:30-32, 1976.
- 5) 岡田和雄「運動嫌いとは体育嫌い」体育科教育, 22-4:12-14, 1974.
- 6) 奥野明, 授業材能の研究, 大成出版, 1976.
- 7) 加賀秀夫「好き嫌いの態度形成」体育科教育, 31-5:19-21, 1983.
- 8) 小林篤「運動嫌いにさせるものは何か—その社会的条件—」体育の科学, 20-5:289-293, 1970.

- 9) 近藤忠義「運動好きと体育嫌い」体育科教育, 31-5:32-34, 1983.
- 10) 佐久本稔「発達段階と運動欲求」体育科教育, 22-4:24-28, 1974.
- 11) 佐久本稔「運動嫌いにさせるものはなにかーその正体と交路を求めてー」体育の科学, 20-5:283-288, 1970.
- 12) 佐久本稔「運動の好きな子嫌いな子」学校体育, 29-6:31-38, 1976.
- 13) 坂田尚彦「体育が嫌いな子を好きにさせる教授技術」体育科教育, 37-12:28-30, 1989.
- 14) 杉原隆「楽しい体育における運動の楽しさの心理学的意味」学校体育, 37-14:20-25, 1984.
- 15) 杉原隆・平間隆「児童・生徒からみた理想的体育教師像」学校体育, 40-6:132-137, 1987.
- 16) 鈴木清「運動嫌いの子どもの背景」体育科教育, 22-4:6-8, 1974.
- 17) 末利博「運動の下手な子の原因の探究とその対策」学校体育, 31-11:8-11, 1963.
- 18) 高田典衛「よい授業の探究」大修館, 27-48, 1982.
- 19) 高田典衛「運動の好きな子嫌いな子」体育科教育, 22-4:9-11, 1974.
- 20) 高田典衛「運動嫌いの子供の体育指導」体育の科学, 20-5:300, 1970.
- 21) 徳永幹雄, 多々納秀雄, 橋本公雄, 金崎良三「スポーツ行動の予測因子としての行動意図・態度・信念に関する研究」体育学研究, 25-3:179-189, 1980.
- 22) 中島豊雄「学校体育と社会体育の接点に関する研究1, 大学における体育およびスポーツ活動と卒業後のスポーツ行動との関係ー名古屋大学卒業生の場合」名古屋大学教養部紀要, 15:61-85, 1971.
- 23) 中島豊雄「卒業後のスポーツ行動と学校体育」33-1:138-141, 1980.
- 24) 丹羽劭昭「運動嫌いや運動への無関心層をいかにひきつけるか」体育の科学, 20-5:294-297, 1970.
- 25) 丹羽劭昭「運動嫌い」と体育指導」体育の科学, 20-5:296, 1970.
- 26) 橋本公雄, 徳永幹雄, 松本寿吉「生涯体育の視点からみた大学体育のあり方に関する研究ー身体運動に対する態度と行動についてー」九州地区生涯体育研究会(編), 71-79, 1990.
- 27) 長谷川美恵子・酒井紀子「ダンス嫌いの要因について」体育学研究, 26-1:1-10, 1981.
- 28) 波田野義郎, 中村精男「運動嫌いの生成機序に関する研究」体育学研究, 26-3:176-187, 1981.
- 29) 藤巻公裕「子どもを運動嫌いにする背景」体育科教育, 31-5:22-25, 1983.
- 30) 藤巻公裕「運動嫌いが運動好きになるとき」体育科教育, 37-12:25-27, 1989.
- 31) 松田岩男「運動の楽しさを知らない子どもたち」体育科教育, 31-5:10-13, 1983.
- 32) 松田岩男「心理学からみた楽しい体育のあり方」学校体育, 37-14:12-19, 1984.
- 33) 松井貞夫「小・中・高校生が望んでいる優れた体育教師像」体育の科学, 34-1:13-18, 1984.
- 34) 文部省・経済企画庁等関係6省庁, コミュニティスポーツ施設整備計画調査報告書ー住民意識調査ー, 日本システム開発研究所, 26-31, 1974.
- 35) 安田昭子「女の子にみる運動の好き嫌い」体育科教育, 31-5:48-50, 1983.
- 36) 和田尚「運動が嫌いな子を好きにさせる教師の指導」体育科教育, 32-10:58-60, 1984.